

保育・教育施設支援

【みえ発！ボラパック】の活動中、山田町で特に深い関わりを持った場所である保育・教育施設。

第5便～第24便まで、避難所となっていた織笠保育園での活動はほぼ毎日あり、調理補助を中心に、8月末の避難所撤去作業までお手伝いしました。先生方の優しさに感謝、笑顔に元気をいただいていた活動の日々でした。その他、お子さんと触れ合う活動は数多く、便によっては避難所でのこどもの遊び相手もあるなど、様々な団体や施設の支援をしました。

そして、みえボラ継続ニーズとして第23便～第36便まで活動した「えほんの読み聞かせ」。山田町内全11ヶ所の保育園・幼稚園、青少年の家を仮校舎としている2校の小学校を訪ね、絵本の読み聞かせを中心としたお遊戯を行ないました。第23便のメンバー寺坂さんの発案によりスタートしたこの活動は、経験の有無を問わず担当し、便を重ねる毎に試行錯誤と改良を繰り返しました。前便からの引継事項を照合し、前日の夜は遅くまでダンスや歌・手遊びなどを含め、メンバー全員で予行練習をして活動に挑みました。先生方に温かく迎えられ、子どもたちに助けられ、笑顔の尽きることない空間で有意義な活動となりました。

あの日の衝撃は、遠く離れた私達にも大きなダメージをもたらし、何かしなければとざわつく心を静めることができませんでした。そこで「被災地に本をおくる会」を3月末に立ち上げ、すぐに現地に行けない私の願いを本に託しました。でも、いつかは自分で本を届け、子ども達の笑顔にふれたいと思っていました。その夢をみえボラで叶えて下さり、最後まで読み聞かせを継続して頂いたこと、本当に嬉しく思います。素直で元気な山田町の子ども達に出会えてよかった、あの子達の未来に幸あれと心から祈っています。

第23便 寺坂典子さん



活動中、被災した2つの小学校が9月まで合同の仮校舎で学習していたが、1校が元の場所に戻ったため、備品移動をお手伝いすることになった。驚いたのは、体育館の1/4が職員室と図書館として使用されていたこと。苦労されていたことが一目でわかった。

移動・整理後、集会が始まり、先生と小学生達から私達にお礼の言葉をいただいた。胸がいっぱいになった。

第28便 吉田尚代さん



みえボラの皆さまとのつながりは非常に印象深かったと思っています。園児たちは意外に積極的に話したり、遊んだり、絵本の読み聞かせなどを楽しみ、生活発表会の劇遊び「おむすびころりん」では心の底から素直に笑っていると感じました。皆さまと子どもたちが歌った「にじ」「どんといこうぜ」「手のひらを太陽に」で心をひとつにして一緒に手をつないで歌ったあの光景は今も思い出すと涙がこみ上げてきます。無邪気な子どもたちが元気に歌い、健康で優しくすくすくと育つことが皆さまへの恩返しと思い、これからも頑張っています。

本当にありがとうございました。

わかき保育園 柏谷千代子園長先生



【みえ発！ボラパック】第36便では、なんと全日程が「えほんの読み聞かせ」活動の予定で埋まっていました。最後の訪問日には、各園から手作りのプレゼントをいただきました。園によって伺った回数はそれぞれですが、各便がつないだ想いの結晶をずっしり感じ、ありがたく頂戴しました。これまでの参加者の皆さんの手にも渡り、触れ合った園児の笑顔と温かく迎えて下さった先生方に、改めて感謝の気持ちでいっぱいです。いただいたプレゼントは当センターの宝物となって、事務局に飾られています。



仮設風呂清掃



第13便～第24便まで、避難所であった山田高等学校の仮設風呂の清掃を行いました。8月末に避難所が終了となり撤去されるまで、みえボラ継続ニーズとして活動しました。湿気と熱気がこもりやすい夏場のお風呂場ですが、入浴する皆さんが気持ちよく利用していただけるよう、毎日精一杯清掃しました。複雑な手順や作業が多く、次便への引継ぎが難題であったため、各便ごとに写真やイラストを用いた詳細なマニュアルを制作し、試行錯誤しました。



【山田町の皆さんへ】山田町の皆さんは、私達を温かく迎えて下さいました。保育園のこども達はすごく元気な笑顔が印象的で、一瞬被災されている事を忘れる程でしたが、震災時の話を聞いて改めて心が痛みました。活動を通し、学び、感じ、逆に多くものを得ました！今回できたことは小さかったけれど、今後も手助けができればと思います！（第34便 長谷川哲夫さん）